

第 27 号

2015 年 6 月 15 日発行
編集・発行 石井甲一

〒 278-8510
千葉県野田市山崎 2641
東京理科大学薬学部内

印刷・菅原印刷(株)

ふなかわら



神楽坂キャンパス 1号館・7号館・9号館

C O N T E N T S

1. 副会長挨拶（内村 兼一）	2	15期同期会報告	14
2. ご挨拶（深井 文雄）	3	19期同期会報告	14
3. 平成27年度同窓会総会および講演会のご案内	3	4期同期会報告	15
4. 平成27年度「実践社会薬学」の開講およびご案内	4	3期同期会報告	15
5. 薬学講座のご案内	6	16期同期会報告	16
6. トピック	8	10. 平成26年度同窓会総会について	17
・薬局・薬剤師を活用した		11. 理窓会関連団体加入について	20
健康情報拠点推進事業について（小林 寧）	8	12. 2015年度名簿について	20
7. 卒業生報告	10	13. 会費納入のお願いおよび平成26年度会費納入状況	21
近況報告（坂本 春喜）	10	14. 会費・寄付納入者一覧	22
8. 新任の挨拶（原田 陽介）	11	15. 終身会員一覧	22
（真野 泰成）	11	16. 訃報	26
9. 同窓会だより	12	17. 氏名・住所・異動等変更届	27
平成27年度地区交流会のご案内	12	18. 同窓会幹事一覧	28
平成26年度地区交流会 in 山形	13	19. 編集後記	28
6期同期会報告	13		

副会長挨拶



東京理科大学 薬学部 同窓会副会長 内村 兼一（30期）

平成26年7月の東京理科大学薬学部同窓会総会にて石井甲一会長より推薦をうけ、副会長を仰せつかりました30期（平成5年薬学科卒）内村兼一と申します。よろしくお願い申し上げます。

私のような若い世代の者に務まるのかという思いもございましたが、石井会長より役員の世界交代を意識しての人選と伺い、それならば精一杯やらせていただこうと思い、お引き受けさせていただきました。力不足のところもあると思いますが、諸先輩方にはご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

さて、簡単に自己紹介させていただきます。

在学中は、故鈴木静夫先生率いる衛生化学研究室で鈴木潤三先生にご指導いただき卒業研究をしていました。卒業後、製薬会社に入社したものの、思う所があり、わずか1か月半ほどで辞めてしまいました。すぐに、以前同窓会副会長をされていた3期中村洋司氏の経営する調剤薬局に拾っていただきました。このご縁がなければ、今回こうして副会長をお引き受けさせていただくことは無かったと思います。当時は、調剤薬局の現場で在宅医療の走りを経験させていただきました。その後、稼業の事情もあり薬の世界を離れ、26歳の時に不動産管理会社を立ち上げて生損保代理業を兼業しながら20年ほど経営してまいりました。現在、日常的には、賃貸大家さんとして、衣食住の住の部分につき、入居者の方に安心、安全、快適な生活を送っていただくことを心掛け、お部屋の提供をしています。物件が、羽田空港や品川に近いので、キャビンアテンダント、パイロット、整備士さんなど空港関係の方や、世界を股にかけて活躍されている企業戦士の方が多くいらっしゃる一方で、物件によっては、50代から80代超の生活保護を受給されている方など、年齢、職業、社会的背景、事情、ライフステージ等多岐にわたる方がいらっしゃいます。この仕事は、一見、気楽な商売と捉えられがちですが、20年もやってまいりますと、本当に色々なことがございます。平成25年には、しきりに世間で言われるようになりました「孤独死」も貸し部屋で起きました。ご本人が意識を失う直前に救急に連絡を入れられた為、発見が早く対応できましたが、改めて、人の生活や人生に関わる仕事であると再認識すると同時に、ふと、中村会長の元で20年前に在宅医療の訪問薬剤師として多くの方の人生に関わっていた時のことを思い出しました。他にも色々なことがございましたが、この辺りのことは、書くと長くなりますので、お聴きになりたい方は、是非同窓会に顔を出してください（笑）。

ところで、このように薬の世界とは縁のない異業種に身を置く私がなぜ薬学部同窓会に顔を出すようになったかをお話させていただきたいと思います。

かれこれ、同窓会に顔を出させていただいてから10年ほどになりますが、実のところ、これまで、何度もお誘いをいただきながら、お断りしておりました。先の薬局勤めをしていた頃の上司でもあり、現在、薬学部嘱託教授をされている25期伊集院一成氏より、仕事上の取引もさせていただいている中で「うっちゃん、同窓会においでよ」としばしば声を掛けていただいております。ですが、「僕は、薬の世界にいないのですから、同窓会にお邪魔しても…」と敷居が高く感じ、お断りしておりました。しかし、そうは言いながらも、一方で、何か釈然としない引っかかるものがありました。薬剤師法第一条には「薬剤師は、～公衆衛生の向上及び増進に寄与し、国民の健康的な生活を確保する～」と書かれておりますが、今の自分はその責務を何ら果たしていないという、どこか後ろめたいような感覚があったのです。ですので、何らかの形で「薬の世界」に接したいという思いがありました。そこで、一つの形として薬学部同窓会という場に参加させていただくことで、幾らかでも薬の世界に接することができる…ちょっと顔を出してみるかと思い始めたのです。

いざ、顔を出してみると、私のような異業種の者に対しても、たいへん暖かく受け入れていただき、ほっとした感覚を今でも覚えております。更に、この場合は、東京理科大学薬学部の卒業生の集まりであるという、漠然とした安心感、言葉にせずとも共有できる感覚があります。私は、この点が薬学部同窓会の一番良いところと感じております。

最後になりますが、石井会長も目指すところの世代交代です。また、私のような異業種に身を置く者が副会長になったということは、業界を問わず、卒業生であれば誰でも参加OK！というメッセージも含まれているものと感じております。時代や世代を超えて、同じ学び舎で過ごしたからこそ共有できる感覚、仕事以外の繋がりは、人生をより豊かにすると感じております。また、人とのご縁が人生を創ると言っても過言ではないと思います。卒業生の皆様、特に若い世代の同窓生の皆様の積極的な参加を心よりお待ちしております。

ご挨拶

薬学部長 深井 文雄



平成18年からの新しい薬学教育制度に対応し、ご承知のように、本学薬学部は6年制の「薬学科」に加えて、薬剤師資格を目指さない4年制の「生命創薬科学科」を同じ規模で併設しました。ほとんどの薬系私立大学が薬剤師資格取得に注力する中であって、ユニークでチャレンジングな選択でした。本学薬学部は研究者養成においては伝統的に我が国でトップクラスにあることから、6年制薬学科はその目標として「高い研究能力と問題解決能力を備えた薬剤師の養成」を掲げました。すなわち、医療現場での薬物治療に科学者の視点で関与できる「薬」のプロフェッショナル／薬剤師を育成することが本学薬学部に対する社会的要請であり、これまでの伝統でもあります。さらに、薬学教育の高度化に伴って、その上位教育機関である大学院博士課程・薬学研究科では、将来の薬学教育・研究をリードする人材、あるいは基幹病院の薬剤部長など指導的立場に立つ薬学人を輩出することが本学の責務であると認識しています。

一方、先端医療を支える創薬研究者の育成を掲げて設置された「生命創薬科学科」では、大学院薬学研究科・薬科学専攻への進学を半ば前提としたカリキュラムが編成され、学部と大学院修士課程の6年一環教育が事実上実践されています。「世界と伍して戦いうる創薬研究者の育成」を目標として、野田キャンパスの理工学部・応用生物学科や生命医科学研究所との連携により、学部学科の垣根を越えた活発な研究活動が行われています。

一見すると目的を異にする両学科ですが、このように「研究」を中心に据え、且つ両学科がもたれ合いでなく真の相補的協力関係を確立する事によって、本学薬学部は全国の薬系大学の中でも個性ある優れた薬学部として更に大きく発展して行けるものと確信しております。しかしながら昨今、OBの方々から本学薬学部が『ふながわら』時代と比較してその輝きに若干かげりが見えてきたとの厳しいご批判の声を聞く事が多くなっていることも事実です。本学薬学部に対する高い社会的評価は、50年を越す薬学部の歴史の中で、卒業生の先輩諸氏が着々と築いてこられたその実力・伝統力に負うところ絶大であります。先輩諸氏の皆様方からのご指導ご鞭撻を頂戴しつつ、薬学部は新しい時代に向かって更に力強い歩みを継続しなければなりません。折しも理科大学は「日本の理科大学から世界の理科大学へ」のスローガンのもとに新たなスタートをきりました。私たち薬学部にとっても新しい航海の始まりです。「ヒューマニズムと研究心に溢れる高度薬剤師の養成」、「世界をリードする創薬研究者の育成」と大書された旗をなびかせながらの遙かな航海です。

したには紺碧にまさる青き流れ
うえには黄金なす陽の光
されど憩いを知らぬ帆は
嵐の中にこそ平穏のあるが如くに
せつに狂乱怒濤をのみ求むる也 (レールモントフ)

平成27年度東京理科大学薬学部同窓会総会および講演会のご案内

本年度の同窓会総会および講演会を下記にて開催致します。万障お繰り合わせの上、ご出席賜りたくご案内申し上げます。

■日 時：平成27年7月25日（土）14：00～

■場 所：インテリジェントロビー・ルコ（軽子坂MNビル）

東京都新宿区揚場町2-1 軽子坂MNビル1F 電話：03-3266-9311

●同窓会総会、講演会および懇親会のすべてを上記会場で開催致します。

■次 第：14：00～15：00 同窓会総会

15：00～17：00 特別講演会

「医療安全に関するトピックス：医療事故調査制度について、いま知っておきたいこと、準備しておきたいこと」

九州大学大学院医学研究院 医療経営・管理学講座 准教授、九州大学病院 病院長補佐

鮎澤 純子 先生（20期）

（財）日本薬剤師研修センター認定（1単位）

17：30～19：30 懇親会

■会 費：懇親会 5,000円

平成27年度「実践社会薬学」の開講

同窓会の皆様の全面的なサポートで開催してきました「実践社会薬学講座」も、本年度で20回目という成人の年を迎えることが出来ました。しかしながら、平成27年度からのカリキュラム変更により、平成28年度には新「実践社会薬学講座」が始まります。同窓会主催の本講座も今年度で最後となり、来年からは、いよいよ薬学部の新正式科目として新たにスタートを切ります。

「実践社会薬学」の本年度のスケジュールは以下の通りです。4月12日（土）よりスタートし、最終日5月30日の最終コマでは学生・講師陣との情報交換会が行われ

ます。

行政、薬剤師会、薬局、病院、企業分野において活躍されている先輩方が、講師として在学中に講義をしていただきます。諸先輩の社会での経験・生きた情報は、現役の学生にとってなかなか聞くことのできない貴重なものです。また、最終回は本学の中根理事長にお越し頂き、お話を頂きました。履修登録学生も60名を超え、最終回に相応しい内容となりました。卒業生皆様のご尽力もあり、ここまで継続してくることができました。ご協力頂きました皆様に感謝申し上げます。

平成27年度「実践社会薬学」プログラム

	日程	時間	講師名	所属	期	タイトル	内 容
導 入		13:10～13:20	石井 甲一	薬学部同窓会会長			
行政 薬剤師会	4月11日	13:20～14:00	駒嶺 真希	(独)医薬品医療機器総合機構 医療情報活用推進室	47	医薬品医療機器総合機構(PMDA)に勤める薬学部卒業生って何しているの？	PMDAと厚生労働省の関係やPMDAではどのような仕事をするのか等、日頃の業務の事例を紹介しながら、わかりやすくお話しします。
		14:00～14:40	鵜野 玲美	日本薬剤師会	40	日本薬剤師会の仕事 ～薬剤師を取り巻く現状とともに～	医療の現場で働く薬剤師を支援する薬剤師会の仕事などを紹介します。
		休 憩					
		14:50～15:30	保坂映美李	東京都健康安全研究センター薬事監視指導課医薬品第二係	44	東京都庁に勤める薬学部卒業生って何しているの？	薬学部を卒業して東京都に勤めるとどのような仕事をするのか、日頃の業務の事例を紹介し、わかりやすく解説します。
		15:30～16:20	高橋 未明	厚生労働省医政局研究開発振興課	31	厚生労働省に勤める薬学部卒業生って何しているの？	薬学部を卒業して霞ヶ関に勤めるとどのような仕事をするのか、講師の実体験、テレビ、新聞などの身近な話題、皆さんが聞いたことのある話題からその内容をわかりやすく解説します。
薬 局	4月18日	13:10～14:10	金澤 幸江	ポプリ薬局	12	地域医療と薬局薬剤師・自分の薬局を持つ！	地域チーム医療が進められる中、薬局薬剤師はどのように社会貢献しているのか、また薬局経営者の立場も紹介します。
		休 憩					
		14:20～15:20	大山 邦之	(株)ヘルスアップ		地域医療を担う複合施設への挑戦	ドラッグ、保険薬局、医療密着型医療モールなど、薬剤師の職能を発揮する場所は1カ所にとどまりません。社長自らが実践している地域包括ケアシステムについて紹介します。
		15:30～16:20	雲腰 俊介	ファーマミック薬局		患者さんのための薬局 ～30歳薬局経営者の視点～	ジェネリック医薬品のこと、在宅医療のことなど、常に患者さんのためにを考えている薬局経営者の視点から薬剤師業務を紹介します。

病院	4月25日	13:10～13:55	齊藤 達也	国立病院機構相模原病院		病院薬剤師の業務	病院薬剤師って何をやっているのか。普段接する機会の少ない病院薬剤師の業務について紹介いたします。
		13:55～14:40	齊藤 美郷	千葉大学医学部附属病院薬剤部レジデント		薬剤師レジデントとしての1年間	レジデントってなに？1年目ってどんな風に過ごすの？など、新米薬剤師の1年間をご紹介します。
		休 憩					
		14:50～15:35	折山 豊仁	東京大学医学部附属病院	43	大学病院の薬剤師の話	大学病院の薬剤師は一般病院の薬剤師+研究という課題が与えられます。大学病院で活躍する薬剤師の話をさせていただきます。
		15:35～16:20	小高 賢一	新百合ヶ丘総合病院	13	病院薬剤師になる覚悟	病院薬剤師は素晴らしい職業だと思うが、また重い責任を負います。臨床現場における薬剤師の心構えと病院へ就職するために役立つお話をしたいと思います。
企業	5月9日	13:10～13:55	若松 正克	新日本科学PPD	26	用語解説/医薬品業界の全体像	企業の部を受講するにあたって、知っておきたい用語を中心に医薬品業界の全体像を紹介いたします。
		13:55～14:30	若松 正克	新日本科学PPD	26	キャリア・デザイン（1）	薬学部卒業生としてのキャリアデザインの考え方前半
		休 憩					
		14:40～15:25	樽野 弘之	第一三共	22	キャリア・デザイン（2）	薬学部卒業生としてのキャリアデザインの考え方後半、将来の自分の姿について考えてみよう。どうしたら就職できるか教えます。
		15:25～16:20	樽野 弘之	第一三共	22	医薬品業界のグローバル化	製薬会社が向かうべき姿（グローバル化、新薬開発）とこれから製薬企業の中で薬学生が果たすべき高度な役割（能力およびスキル）とは何か
企業	5月16日	13:10～13:55	真嶋 修慈	第一三共	38	（新薬開発）－臨床試験立案・モニタリングから申請・承認取得まで－	新薬開発（適応拡大を含む）の主役である開発担当者の業務について、モニタリング業務を中心に、必要となるスキルも交えながら幅広く紹介します。
		13:55～14:40	鈴木 敦子	テルモ	29	（医療機器）医療機器の開発－具体的な事例を中心に－	医療機器とは？ 医療機器の開発はどのようにされているのか、開発秘話を含めご紹介いたします。
		休 憩					
		14:50～15:35	飯野 直子	テラ	21	（研究）ベンチャー企業の現状と課題－再生医療・細胞治療の実用化・産業化への取り組み－	細胞・再生医療の実用化・産業化について、患者志向かつベンチャー志向で物事を考えてみよう。
		15:35～16:20	本日の講師	Discus		薬学卒業生の職業を考える（1）	薬学部を卒業したメリットは何か？自分は何ができるようになっているのか、社会に何が貢献できるかを考える。
企業	5月23日	13:10～13:55	鶴田 正範	アステラス製薬	39	（営業）MR（医薬情報担当者）のここのでしか聞けない本音話	MR（医薬情報担当者）の一日…「嬉しかったこと」「辛かったこと」に加え、あまり大きな声で言えないような裏話を紹介します。
		13:55～14:40	田口 伸行	アステラス製薬	39	（営業本部）MRから始めるキャリアのすすめ	MRは生涯続ける仕事なの？MRを経験した後に待っている仕事、キャリアアップとは。
		休 憩					
		14:50～15:35	中村 宏	ディーエイチシー	23	（一般薬・サプリメント）身近なクスリ・大衆薬とは	皆さんがTVCMでおなじみのOTC医薬品やサプリメントは、どのように開発され、市場にだされているのか、またOTCメーカーでの薬剤師の仕事は？などについて、医療用医薬品とは一味違ったOTC医薬品の姿を紹介します。
		15:35～16:20	本日の講師	Discus		薬学卒業生の職業を考える（2）	薬学部を卒業したメリットは何か？自分は何ができるようになっているのか、社会に何が貢献できるかを考える。
倫理他	5月30日	13:10～14:40	中村 洋司	（株）田無薬品	3	医療倫理	医療は理論と実技、倫理の三本の柱から成っている。医療倫理とは何かについて考える。
		休 憩					
		14:50～16:20	中根 滋	東京理科大学理事長		理事長講話	
情報交換会	5月30日	休 憩					
		16:30～18:00	参加可能講師陣			講師陣と受講者の懇談会	質問できなかったことの最終確認・討論

第31回 薬学講座 開催要項

期 日	平成27年10月17日（土）
時 間	10：30～17：00（10：00 受付開始）
定 員	240名
場 所	東京理科大学神楽坂キャンパス1号館17階（記念講堂）
参 加 費	2,000円（講演要旨代を含む） ※昼食代は含まれておりません。
主 催	東京理科大学薬学部
共 催	東京理科大学生涯学習センター 東京理科大学薬学部同窓会 公益財団法人日本薬剤師研修センター 文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン採択事業

● 開催の趣旨 ●

薬学講座は、薬剤師のスキルアップのために毎年、最新の医学・薬学領域の情報を始め様々なテーマでの講義を提供しています。今回も基礎研究から、疼痛治療そして漢方とバラエティに富んだ内容で4人の先生方にご講演をお願いしました。まず、余宮先生には疼痛緩和のための最新の薬物療法について、また、稲葉先生には婦人科疾患に用いられる漢方処方箋の解説について、赤瀬先生には「医療経済学」の視点から見た漢方薬について、さらに大谷先生には「肥満と肝がんの関係」に関する基礎研究の成果をご講演頂きます。

受講生の皆さまの業務の一助になることを願いつつ、また文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン採択事業にも役立つような薬学講座を企画しましたので、奮ってご参加して頂けますよう、お願い申し上げます。

● 講座のお申し込み方法について ●

原則、インターネットでのお申し込みのみとさせていただきます。インターネットがご使用になれない方は、東京理科大学生涯学習センターまでお問合せください。なお、受付期間は平成27年8月24日（月）から平成27年10月7日（水）までとさせていただきます。また、定員になり次第締め切らせていただく場合もありますのでご了承ください。

インターネットによるお申し込み

東京理科大学生涯学習センターのホームページからお申し込みください。

<https://manabi.tus.ac.jp>

受付結果の送付

お申し込み受理後、受付結果（受講証）と振込用紙を郵送いたします。

受講料の納入

振込用紙を使用し、コンビニエンスストアかゆうちょ銀行で受講料を納入してください。

講座の受講

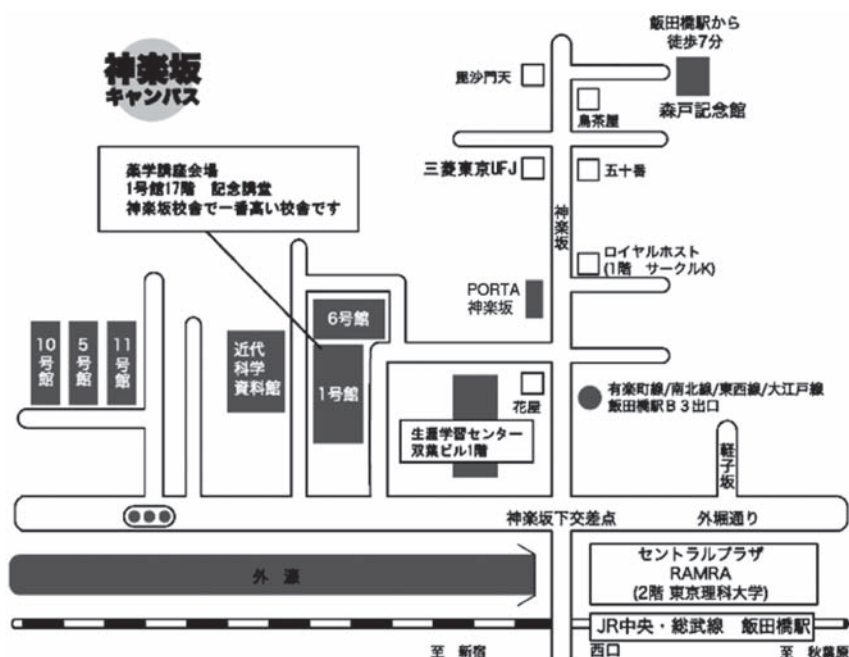
受領印の押された振込用紙の受領証を、受講証の指定箇所に貼付してください。

講座当日には、受講証及び筆記用具をお持ちください。

第31回 薬学講座プログラム

- 10:30～10:35 開会の辞 実行委員長 磯濱 洋一郎
10:35～10:40 学部長挨拶 東京理科大学 薬学部長 深井 文雄
10:40～11:50
「疼痛緩和のための薬物治療」(仮)
埼玉県立がんセンター 緩和ケア科 科長 余宮 きのみ
≪11:50～12:50 昼食・休憩≫
12:50～14:00
「生薬から見た漢方方剤解説(産婦人科疾患の漢方治療)」
社会福祉法人相模更生会 総合相模更生病院 薬剤部長 稲葉 健二郎
≪14:00～14:15 休憩≫
14:15～15:25
「現代医療における漢方薬の経済的有用性」
日本経済大学大学院 経営学研究科 教授 赤瀬 朋秀
≪15:25～15:40 休憩≫
15:40～16:50
「肥満と肝がん：腸内細菌と細胞老化の関与について」(仮)
東京理科大学 理工学部 応用生物科学科 教授 大谷 直子
16:50 閉会の辞 実行委員長 磯濱 洋一郎

※今回の薬学講座は公益財団法人
日本薬剤師研修センター研修認
定薬剤師制度の認定対象研修会
であり、参加される場合は、3
単位の修得となります。
ご希望の方は、当日会場にて受
講シールをお受取りください。
なお、途中入退場者にはお渡し
出来ません。実質4時間30分を
受講した方に受講シールをお渡
しします。



お申し込み先



東京理科大学生涯学習センター

〒162-8601 東京都新宿区神楽坂1-3

TEL: 03-3267-9462 FAX: 03-3267-2048

E-mail: manabi@admin.tus.ac.jp

URL: <https://manabi.tus.ac.jp>

薬局・薬剤師を活用した 健康情報拠点推進事業について

公益社団法人 日本薬剤師会 小林 寧 (26期)



「日本再興戦略」ってご存知でしょうか？日本再興戦略は、アベノミクス「第三の矢」と言われるもので、政府は持続的な経済成長のため、平成25年6月に日本再興戦略を閣議決定しました。

日本再興戦略には、「薬局を地域に密着した健康情報の拠点として、一般用医薬品等の適正な使用に関する助言や健康に関する相談、情報提供を行うなど、セルフメディケーションの推進のために薬局・薬剤師の活用を推進する」と記載されました。こうした政府の大きな方針に薬局・薬剤師に関する施策が盛り込まれるのは、極めて珍しいことです。

■都道府県における「薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業」の実施

この方針を受け、厚生労働省は平成26年度予算において「薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点の推進」のための費用（2億3,900万円）を確保しました。この予算は、47都道府県に交付され、各都道府県では薬局・薬剤師を健康情報拠点として活用し、1）薬の飲み方や使い方など医薬品の適正使用に関する相談、2）食生活（食品・健康食品）や運動、禁煙など、地域住民自らの健康づくりに対するサポート、3）特定健診、がん検診等の受診率向上の取組、4）脳と心の健康サポート、5）薬物やアルコールの乱用・依存の防止、6）飲み残しや飲み忘れ防止等の高齢者・要介護者に対する服薬管理、7）在宅医療を含め地域包括ケアシステム内での連携に資する取組など、さまざまな事業が実施されました。こうした都道府県事業は平成27年度も継続され、把握された課題の改善、事業規模の拡大、他都道府県の事業の導入などにより、地域住民のセルフメディケーションを支援するための事業が全国で展開されることになっています。

■健康情報拠点としてふさわしい薬局の基準づくり

さらに、平成26年6月に閣議決定された「日本再興戦略改訂2014」の中短期工程表には「充実した相談体制や設備などを有する薬局を住民に公表する仕組みの検討」が盛り込まれました。これを踏まえ厚生労働省は平成27年度予算において、都道府県における事業の実施及び健康情報拠点としてふさわしい薬局（健康ナビステーション（仮称））の基準の作成等を行うための費用（2億2,300万円）を確保しました。

一方、薬局のあるべき姿に関しては、平成25年度厚生

労働科学研究「薬剤師が担うチーム医療と地域医療の調査とアウトカムの評価研究」班（主任研究者：安原真人 東京医科歯科大学教授）は平成26年1月に「薬局の求められる機能とあるべき姿」を公表しています。平成26年度には、その分担研究である「薬局におけるかかりつけ機能をもった健康情報拠点薬局を推進するための研究」（分担研究者：長谷川洋一 名城大学薬学部教授）が行われ、健康情報拠点薬局の考え方として「調剤による薬剤の提供に加えて、要指導医薬品、一般用医薬品等の適正な使用に関する助言や健康に関する相談、情報提供を積極的に行う等、多職種連携の中で地域に密着した健康情報の拠点としての機能を果たし、国民の病気の予防や健康づくりに貢献している薬局」とし、健康情報拠点薬局に求められる機能を、1）構造・設備等、2）医薬品・衛生材料の供給体制、3）薬剤師の人的要件、4）健康相談・健康づくり支援、5）かかりつけ薬局としての機能、6）地域における連携体制の構築等－の観点から検討がなされました。また、同分担研究ではこうした検討に資するため、薬局における健康情報等の提供状況や、要指導医薬品及び一般用医薬品等の取扱状況等を把握するための実態調査を行い、その結果を公表しています。この分担研究の概要は本年3月23日に厚生労働省において開催された、平成26年度医薬分業指導者協議会において「地域の健康情報の拠点としての薬局の機能」と題した講演にて報告され、厚生労働省のホームページ（<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000078795.html>）にも掲載されておりますので、是非一度ご覧いただければと思います。

平成27年度は、厚生労働省医薬食品局に検討会が設置され、健康情報拠点としてふさわしい薬局の定義、名称、基準の策定、公表の仕組みなどが検討されます。同検討会には、本会を含む医療関係者のほか、患者代表やマスコミ代表の方々も参加する予定です。

■おわりに

厚生労働省は、この事業の成果により「国民が健康ナビステーション（仮称）に容易にアクセスできるようにすることで、国民のセルフメディケーションの推進を図る」としており、都道府県事業については「薬剤師だけでなく、かかりつけ医を中心として歯科医師、看護師等の医療関係者、介護福祉関係者等の多職種連携を構築しながら、進めること」が望ましいとしています。

現在、薬局の現状については、「処方箋調剤業務が

ほとんどで一般用医薬品を扱わない薬局が多い」、「健康づくりの拠点になるような取り組みが不十分」、「医薬分業について十分な理解が得られていない」といった問題点が指摘されています。また、いわゆる薬歴未記載問題や、規制改革会議においては医療機関と薬局の構造上の独立性を緩和するとの議論など、医薬分業に対して厳し

い目が向けられています。

本年度も各都道府県において、薬局・薬剤師を活用したモデル事業が都道府県薬剤師会を中心に実施されますので、ぜひご参加いただき、薬局機能や薬剤師職能の充実・強化に繋げていただければと思います。



近況報告

アボットジャパン株式会社
代表取締役会長兼社長 坂本 春喜（17期）



今回、薬学部同窓会誌を通し卒業生、在校生の皆様に出る機会に恵まれ、大いに感謝をしています。私は、1982年に薬学部修士課程を修了しました坂本春喜です。現在アボットジャパン（株）に勤務しています。この紙面を通し、とりわけ懐かしい方々に近況を報告するために筆を走らせてみたいと思います。

卒業後、アボットジャパン（株）、中でも主として診断薬機器事業部の仕事に従事し、今年で早や30年強の社会人人生を送ることとなります。その間、社内外における環境の変化はめまぐるしく、自分自身の年齢も進み、近年では数年前の事でさえ「記憶のかなた」との感を覚えます。しかし、2001年9月11日当日は、まさに米国シカゴに出張中で事の重大さ、深刻さにショックを受けたことは今でも忘れられません。そして、2011年3月のわが国での震災は、日本国の産業の成り立ちや有り方、現在及び将来に向けた国民生活の有様などに問い掛けを強いる大きな事象でもありました。復興に向けた官民活動が日本の歴史に残る、かつ語り継がれる良質の物となる事を願うばかりです。また、日本のヘルスケアを取り巻く環境においても、加速する少子高齢化による人口問題や国民総医療費の増大より社会保障制度の制度疲労に直面する事で、制度の運営方法にとどまらず制度自体の目的を考え合わせた制度改革を迫られています。とりわけ「医療の質の向上」と「医療費の適正化」に向けたこの転換期に、実質医療行為の中で大きな役割を果たしている検査医療、臨床検査の価値と役割についての深い論議は、必須の要件と考えます。

身近では、社員採用教育の現場を通し感じる事考える事が多々あります。現在の薬学教育の体制、方向性を外より拝見し、我々が学生であった頃と比べ大きく変化しているとの理解ではいます。実態は如何なのか。日本の医療の形体、その大きな変化の流れの中で果たすべき薬学教育はどの様に変化していくべきなのか、この様なことをふと考えます。基礎医科学、医薬品開発、検査診断薬開発、医療機器開発など全てをのみ込んだ先端医療・次世代医療の論議から始まり、社会保障制度そして人々のQOLをどの様に考えるかという“大きな絵”、個別分野での“詳細な絵”を描く芽を持ちそれに挑戦できる個を育てる自由な教育、これらの事も考え今以上の進化を実現してほしいという願いが増すばかりです。我々企業側もその観点から、どの様に教育機関、教育関係者と交

流を図るべきかを考えさせられる日々でも有ります。

さて、私個人の生活です。アボットジャパン（株）は、米国に本社を置くアボットラボラトリーを本体とする（薬品、診断薬、栄養剤、医療機器事業から成る）外資企業です。そこに勤務するが故、海外出張が非常に多く、本当に「健康管理」が主たる業務と感じる事が多々あります。生涯を有限な有質生存物質と想定し、その「質量保存の法則」から無理は禁物と自己管理、自己正当化に明け暮れる日々を送っています。

ここ数年参加が出来ないでいますが、先輩、後輩を交えた学生時代の部活動メンバーによる定例会があります。その度に、学生時代に憶えかつ非常にインパクトを覚えた学術用語がふと思い浮かんで反芻することもあります。「シンガーニコルソンの細胞膜構造」や「オペロン説」などは、細胞生物学に傾倒していた当時の残骸記憶として今でも残っています。近からず遠からず、声をかけてくれる仲間、後輩、先輩方がいる事も理科大薬学部で学び生活した故の大きな財産となっています。

それでは、紙面の制限もある事からこの様な「卒業生報告：近況報告」に合わせ、卒業生、在校生の皆様、薬学部で研究教鞭をとっておられる先生方のご活躍を願い、筆を置かせて頂きます。

2015年2月記



新任の挨拶



原田 陽介（免疫創薬学研究室）

平成27年4月より免疫創薬学研究室を主宰することになりました原田と申します。主に免疫学の講義や実習を担当しております。私は今からちょうど20年前の1995年に本学薬学部を卒業し、その後、北海道大学薬学部の大学院に進学しました。博士課程修了後は東京理科大学生命医科学研究所および米国ラホヤアレルギー免疫研究所で免疫学、特にT細胞の免疫調節機構の研究に取り組んで参りました。

私は理科大薬学部にて在籍していたころから免疫学に強い興味を持ち、免疫学を深く学びたいと考えておりましたが、その当時薬学部には免疫学の授業はなく、免疫の研究室もなかったことから、その情熱は暫くの間は心に

しまわれたままとなりました。その念願の免疫学研究室を私自身が立ち上げる事になったことは非常に感慨深いものがあります。私が学生のころ味わった免疫システムの精巧な仕組みに対する感動を薬学部の学生のみさんにも味わってもらうこと、そして免疫を基盤とした創薬の担い手を育成していくことが今後の目標です。

20年ぶりの薬学部は6年制の導入により様変わりしていて、研究畑を一貫して歩んできた私にとってはまだ慣れるまでに時間がかかりそうですが、薬剤師教育の面でも免疫学の専門家として微力ながらお役に立てればと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新任の挨拶



真野 泰成（臨床薬剤学研究室）

平成27年4月より調剤学などの講義ならびに医療薬学実習を担当しております。私は北海道出身で、本学薬学部薬学科を卒業し、本学大学院修士課程を修了後、市立室蘭総合病院薬局、金沢大学医学部附属病院薬剤部などで病院薬剤師として勤務しておりました。その間、金沢大学大学院にて博士課程を修了しました。医療現場では臨床薬剤師として、医療スタッフへの医薬品情報提供、病棟薬剤業務などを通じて薬物治療に関わってきました。その後、新設された国際医療福祉大学薬学部の教員となり、医療系の実習、病院および薬局実務実習の立ち上げなど、医療薬学の研究・教育に10年間従事してきました。

この度、母校でお世話になることとなり、臨床薬剤学研究室を担当することになりました。臨床現場の薬物治療はまだ経験的なものが多く、科学的に評価をし、より確実な薬物治療を提供する必要があります。私はこれまで、臨床現場で直面する薬物治療の問題点を解明するた

めに、基礎および臨床研究を行ってきました。今後も、薬物治療に有用なエビデンスの構築を目指していきたいと考えています。そして、研究・教育を通して、問題解決能力を兼ね備え、社会に貢献できる人材を育成するよう努力してまいります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



平成27年度東京理科大学薬学部地区交流会のご案内

皆様には益々御健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、本年度の地区交流会を下記にて開催いたします。万障お繰り合わせの上、ご出席賜りたくご案内申し上げます。大勢の皆様のご参加をお待ちしております。

平成27年 6 月

東京理科大学薬学部同窓会

会長 石井 甲一

■日時：平成27年11月22日（日）19：30～

■場所：鹿児島サンロイヤルホテル13階 スカイラウンジ『フェニックス』

〒890-8581 鹿児島県鹿児島市与次郎1-8-10

TEL 099-253-2020 FAX 099-255-0186

URL <http://www.sunroyal.co.jp/restaurant/phoenix/>

学術大会懇親会会場と同じホテルの13階



■会費：5,000円

※ 当日 会場にて徴収させていただきます。

■申込：会場確保の都合がございますので、地区交流会に参加される方は、下記のとおり事前にお申し込みをお願い致します。電話での受付は致しません。

【申込期限】 11月10日（火）まで

【申込方法】

- ・同窓会ホームページの地区交流会申込フォームにアクセスし、お申込みください。
- ・下記内容を明記のうえ、東京理科大学薬学部同窓会事務局宛にご連絡ください。

氏名、卒業期、ご住所、電話番号

【ホームページ】 <http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>

地区交流会のご案内を掲載しておりますのでご覧ください。

【お問合せ】 東京理科大学薬学部同窓会 事務局

〒278-8510 千葉県野田市山崎2641

東京理科大学薬学部内

FAX：04-7121-4531

E-mail：jimu@ridaiyakudo.gr.jp

平成26年度地区交流会 in 山形

今年度の地区交流会は、第47回日本薬剤師会学術大会開催の地、山形で和やかに行われました。山形の中心市街地には、蔵が震災を免れて多く残されています。その蔵を改造した山形らしさ溢れる蔵店（くらみせ）で石井甲一同窓会長はじめ多くの皆様にお集まりいただきました。山形は日本有数の食彩王国です。米沢牛を使った美味しい芋煮をはじめ、山形特産の食用菊モッテノホカやだだちゃ豆、青菜漬、豊富な海の幸、山の幸を使った山形の郷土料理の数々、メにはブランド米つや姫を使ったおにぎり、美味しい地元料理に満足していただけたのではないのでしょうか。そしてなかなか手に入らない高木酒造大吟醸の黒縄、十四代も持ち寄り、皆様楽しくお話が進んだようです。

17期は奥羽大学教授押尾氏、村山保健所の緒方氏、エイブル薬局鈴木氏（旧姓尾原）、三弘製薬村山氏、萬屋薬局の中村（旧姓宇賀神）と、高松から小曳氏（旧姓岡田）も駆けつけ、総勢6名揃いました。出身研究室の話で先輩方と懐かしく、時の経つのも忘れて語り合いました。そして山形には16期の武田直子氏はじめ30名程の同窓生

がおり、温泉に行ったり、食事をしたり、元気をたくさん頂き、楽しく情報交換しています。今後なるべく多くの同窓生の皆様にお声掛けしながら色々な面で皆様の力になれる会になればと思います。東京理科大学薬学部同窓会の今後益々の発展と、会員の皆様の親睦が深まることを期待します。次回また鹿児島でお会いできることを楽しみにしております。

17期 中村 妙子



第6期生同期会の報告

2014年5月11日（日）12時から市谷アルカディアで、5年に1度開催する6期生の同期会が開催されました。一次会に36名が集まって、久しぶりに懐かしい顔に会い、歓談しました。参加者に女性が多いのは、もともと学生のときにも男性は数が少ない学年だったという背景があります。卒業時約200名中女性は80%以上でした。

私たちが1年生の頃、大学紛争で校舎がロックアウトされたことがあります。今は昔の話ですが、皆さんそのころどう過ごしていたんでしょうね？

1969年に卒業して、すでに45年を経過し、全員が前期高齢者のカテゴリーになってしまいましたが、参加され

た方は皆さん元気でした。また、ほとんどの人は現役をリタイアしていますが、理科大薬学部を出たことがキャリアに役にたっているようです。何らかの形で社会とつながっている人が多いようです。

開会后、近況報告を始めるにあたり、司会者から「病氣と孫の話はタブー」とくぎを刺されました。いまだに現役で薬局を経営している方も何名か、模擬患者となって理科大薬学部学生の薬剤師実習のボランティアをしている、企業を定年退職後、薬局に勤務、年に何度も海外旅行に出かける、毎年豪華クルーズに乗っている、ホノルルマラソンに毎年参加やなど、前向きな話が多く、さすがに自立した人たちが多いと感じました。

2次会も同じアルカディアで席を移して行いましたが、2名が追加参加され、最後まで話しが尽きない感じでしたが、4時過ぎに散会しました。

次回は2年後に開催しようということで、ずっと同じ幹

事が企画していましたが、別のグループの方にバトンタッチとなりました。

最後になりましたが同窓会からのご寄附に感謝いたします。

（藤井 幸子 記）



6期同期会



2次会からの参加者

15期同期会報告

担当幹事となった2010年6月の薬学部同窓会をきっかけに、2年ごとに開催されるようになった15期（昭和53年卒業）同期会が、6月28日（土）午後5時より、「PORTA 神楽坂」6階にある理窓会倶楽部で開かれました。

今回が3回目の開催で参加者の減少が危惧されましたが、再会を待ち望んでいた36名が集い、うっとうしい梅雨時にもかかわらず和やかなひとときを過ごすことができました。還暦を迎える人も多くなったため、体調管理、退職、再就職や初孫などの話題が増えましたが、同世代ということもあって、気持ちはすぐに学生時代の頃に帰って思い出話にも花が咲きました。また、ひとりずつ前に出て近況報告をしましたが、学生時代とは違った意外な面をみせる人や、マイクを持ったらなかなか手放さない相変わらずの人もいて、大いに盛り上がりました。

二次会は料亭から居酒屋に変貌した近くにある「竹子」で行われ、25名が参加しました。三次会は前回と同様に神楽坂を上ったおでん屋「せつ」で開かれ、収容人数を大幅に超えた18名が集い、次回の再会を約束してお開き

となりました。

15期同期会のホームページはサーバーの都合で現在休止中です。新たなサーバーで再開する予定ですので、しばらくお待ちください。

2年後に4回目の同期会を開く予定です。まだ一度も参加されていない方の参加も大歓迎ですので、お誘い合わせのうえご出席いただければ幸いです。ご協力をお願いいたします。

（文責：和田 浩志）



第19期同期会報告

平成26年7月26日 東京理科大学薬学部同窓会総会、講演会、続く懇親会の終了後、神楽坂「おでん せつ」で同期会を行いました。総会幹事学年で、講演会演者も同期でテーマが魅力的だったこともあって総会への参加者も多く、懇親会からの当日参加も含め、当初の予想を超えた出席者数27名と貸し切りでも立ち席が出る状態となりました。幹事の動員力？（実は同期の団結力？日頃活動していなくて皆がこのような場に飢えていた？）が示されたかなとも思っております。

会では、懐かしさから昔話に花が咲き、未参加者の近況の共有も含め、昔の思い出にひたる一方で、現状を見据え、仕事や子供の話に及ぶ人もいました。また、卒業以来の対面だったことから、お互いに風貌の変貌ぶりにびっくりし合った方もいました。開始時刻が遅かったこともあり、2時間程度でお開きとなりましたが、皆で次回の再会を約束し終了しました。

19期 永井 健一
小嶋 知夫



第4期生同期会（昭和38年入学）開催報告

平成26年9月14日（日）、お茶の水「東京ガーデンパレス」において4期同期会を開催しました。前回は還暦の年でしたので10年振りの開催となりました。古希という節目の年でもあり、北海道から九州まで全国から47名（男16名・女31名）の懐かしい仲間が集まりました。

記念撮影の後、乾杯し、全員の近況報告が行われました。現役で仕事を続けている人が多かったのは薬学部で学んだという幸運に恵まれたせいかもしれません。介護の苦労話は切実な問題です。孫の面倒を見ている人、スポーツに励んでいる人、ボランティアに精を出している人、趣味を生き甲斐としている人、家族の計報など、一人数分の持ち分でしたが、皆さんが要領よくまとめて話して下さり、最後は勝原さんの川柳で爆笑のうちに予定時間ぴったりで終了しました。卒業して48年、皆さんがそれぞれにいろいろな経験を積み重ねて頑張ってきた証のようでとても感激しました。

二次会は同じフロアのバーに移動し、尽きない話に花を咲かせました。10年後までは健康に自信が持てないので、5年後くらいに元気だったら次の同期会を開きましようと言いました。

女性有志により4期同窓会「はづき会」を毎年続けていますが、男性も参加したいという意

見があり、案内状を送ると約束しました。健康年齢を考えるともう待った無し、皆さん！出来る事には積極的に取り組みましょう。

記：宇留野幸子



3期生同期会報告

薬学部3期卒業生の同期会を平成26年10月4日市ヶ谷のアルカディアで開催しました。

2年ぶりの開催でしたが38名が参加しました。この2年間で1名が他界され、14名の物故者にご冥福を祈った後、懇親会に移りました。

今年は現役早生まれで入学した同期生も70歳になり、これで同期生全員が古希を迎えたこととなります。既に数年前に古希を過ぎた方も居られますが、今回全員で古希祝いとなりました。同期生の多くは体に悩みを抱えながらもこれまで健やかな老後を楽しんで来られた人たちですが、懇親会では脳梗塞の早期発見自己診断の話で盛り上がりしました。

50年前の1964年10月は東海道新幹線の開通と東京オリンピックが開催された時で、我々は3年生前期の期末試験が終わったばかり、

厳しい期末試験から解放された時期でした。

同期会当日は当年最強の台風18号が本土に接近中で、鹿児島、福岡、徳島、三重から参加の同期生は翌日の帰りを心配しながらの懇親会でしたが、学生時代と卒業後



の同期会等過去のスライドを見ながら学生時代の顔に戻り、思い出と懐かしさで会話を弾ませました。

二次会は理窓会倶楽部に会場を移し、20名が名残を惜しみながら楽しいひと時を過ごしました。

次回の同期会は「卒業50周年」。2016年4月3日に旧薬学部校舎跡を見降ろす桜満開の市ヶ谷アルカディアで開催する予定です。

文責：3期生同期会世話人 星野 孝道

16期同期会報告

1979年卒（第16期）の同期会はこれまで4年に1回、オリンピックの年に開催するということで続けて来ました。我々2016年担当の幹事団も、今回はリオデジャネイロ五輪の終了後くらいを想定しておりましたが、一部の方々より4年間は余りにも長いとのご意見があり、昨年2014年11月8日に中間のプレと称して第8回の同期会を開催いたしました。場所は前回と同じ飯田橋の日本出版クラブ会館で、今回も34名の参加を頂き、遠くは秋田、広島等からの参加も頂きました。

開宴に先立ち、残念ながら前回の同期会から本日まで

に他界された3名の方々へ黙祷を捧げ、ご冥福をお祈りいたしました。2年ぶり再会とはいえ、日常とは別の「思い出の時間」を楽しみました。4時間近い1次会もあったという間に過ぎ、気づいてみれば全員参加の2次会へ突入。一気に学生時代へタイムスリップし、40年前と変わることなく神楽坂の夜は更けていきました。

いよいよ次回の2016年は大部分の同期生が還暦を過ぎますので、記念大会として盛大に？開催する予定です。

（16期生 同期会幹事）



平成26年度同窓会通常総会について

平成26年7月26日（土）午後、東京・飯田橋にあるインテリジェントロビー・ルコにおいて、平成26年度通常総会が開催されました。出席者は総勢45名でした。総会担当は第19期が務め司会の小嶋知夫氏の開会宣言、石井甲一会長の挨拶があり、次いで金澤幸江氏（12期）が議長に、小林寧氏（26期）および野村香織氏（34期）が議事録署名人に指名され、事務局の冨塚朋子氏（16期）が議事録作成を担当し、議題に従って議事が進行されました。

主な議題は次の通りで、いずれの議題も原案の通り承認されました。

1. 平成25年度事業報告
2. 平成25年度決算報告及び監査報告
3. 平成26年度事業計画案
4. 平成26年度予算案
5. 副会長承認

なお 副会長は、小高賢一氏（13期）、安藤秀一氏（22期）、上村直樹氏（23期）に加え内村兼一氏（30期）が推薦・承認されました。

以上の議案審議終了後、小嶋氏より閉会宣言がされました。

永井 健一（19期）

第一号議案 平成25年度事業報告

1. 同窓会会報「ふなかわら」第25号の発行
平成25年6月

2. 平成25年度実践社会薬学講座の開催
平成25年4月13日～6月8日
(毎週土曜日7日間)

3. 同窓会通常総会の開催
平成25年7月27日
インテリジェントロビー・ルコ

特別講演会

「在宅医療が日本を変える」

～キュアからケアへのパラダイムチェンジ～

講演者：

医療法人ナカノ会理事長

鹿児島大学医学部臨床教授

全国在宅療養支援診療所連絡会IT・コミュニケーション局長

中野 一司 先生（18期）

懇親会

4. 地区交流会の開催
平成25年9月22日

第46回日本薬剤師会学術大会（大阪）で交流会開催

5. 平成25年度薬学講座を東京理科大学薬学部と共催
平成25年10月19日

6. 新会員勧誘 資料を321名に送付
平成26年1月18日

平成26年3月卒業生（51期）36名、大学院修了者8名が会費納入

7. 卒業生・修了生全員（325名）に卒業・修了記念品（記念スパーテル）を贈呈
平成26年3月19日

8. 卒業記念謝恩会へ祝金を贈呈
平成26年3月19日

9. 同期会開催（2期、5期、7期、11期12期合同）
薬理学研究室同門会開催

5期同期会に際し、祝金3万円を贈呈

10. 2010年度版名簿の販売

11. 薬科大学・薬学部同窓会協議会は欠席

12. ホームページのメンテナンス及びパソコンの新機種導入

13. 幹事会の開催（4回）

平成25年4月6日、7月27日、10月26日、
平成26年2月1日

14. 正副会長会の開催
平成25年7月3日

第二号議案 平成25年度決算報告及び監査報告

平成25年度会計報告				
東京理科大学薬学部同窓会				
平成25年4月1日～平成26年3月31日				
収入の部		支出の部		
内訳	金額	内訳	金額	摘要
同窓会費	2,514,000	人件費	545,250	アルバイト代
名簿購入代	15,000	通信費	24,548	さくらインターネット
名簿賛助金など	0	諸案内状印刷発送費	1,075,498	ふなかわ印刷発送(菅原印刷)
預金利息	2,677	郵便代(宅配代も含む)	60,340	郵便代・宅配代
総会懇親会参加費	305,000	講演会謝金	50,000	講師謝礼
地区交流会懇親会参加費	95,000	総会経費	111,293	会場費・研修シール代
寄付金	0	総会懇親会費	276,060	
資産より繰り入れ	228,083	総会懇親会費	40,000	図書券2000円×20名
		実践社会薬学情報交換会費	73,590	
		卒業記念品代	100,000	
		交際費	214,200	記念スパーテル340本
		同期会協賛金	55,034	
		地区交流会懇親会費	30,000	5期
		全薬科大学薬学部同窓会協議会費	95,000	
		文具・事務経費	0	
		ホームページ維持費	315,947	PC、ソフトウェア、データ入替費等含む
		雑費	60,000	
			33,000	返金(重理会費、名簿代等)
合計	3,159,760	合計	3,159,760	
資産内訳				
		郵便局振替口座	1,509,000	
		定期預金	4,527,095	
		普通預貯金	9,161,206	
		普通預貯金(名簿用)	1,971,470	
		現金	107,781	
		計	17,276,552	
平成26年 7月 4日				
		会計	同窓 智子	
監査報告				
会計報告の各事項を調査し、その収支ともに正確であることを認めます。				
平成26年 7月 10日				
		会計監査	青山 隆夫	
		専本 記子	薬	

第三号議案 平成26年度事業計画案

1. 同窓会会報「ふなかわら」第26号の発行
平成26年 6 月
2. 平成26年度実践社会薬学講座の開催
平成26年 4 月12日～5 月31日
(毎週土曜日 7 日間)
3. 同窓会通常総会の開催
平成26年 7 月26日
インテリジェントロビー・ルコ

特別講演会

「ドーピング防止活動について」

講演者：日本体育大学 スポーツ医学（内科系）研究室 教授
成田 和穂 先生（19期）

「スポーツファーマシストの活動について」

講演者：株式会社ファークス
ファークスひかり薬局
對崎 利香子 先生（19期）

懇親会

4. 地区交流会の開催 平成26年10月12日
第47回日本薬剤師会学術大会（山形）で交流会開催
5. 平成26年度薬学講座を東京理科大学薬学部と共催
平成26年10月18日
6. 新会員勧誘 資料を送付
平成27年 1 月
7. 卒業生・修了生全員に卒業・修了記念品（記念スパーテル）を贈呈
平成27年 3 月
8. 卒業記念謝恩会へ祝金を贈呈
平成27年 3 月
9. 同期会開催に際し、祝金 3 万円を贈呈

10. 2010年度版名簿の販売
11. 薬科大学・薬学部同窓会協議会への協力
12. ホームページのメンテナンス
13. 2015年度版名簿作成準備
14. 幹事会の開催
(平成26年 4 月 5 日、7 月26日開催
平成26年10月、平成27年 1 月を予定)
15. 正副会長会の開催（平成26年 7 月 4 日）

第四号議案 平成26年度予算案

平成26年度収支予算案			
東京理科大学薬学部同窓会			
平成26年4月1日～平成27年3月31日			
収入の部		支出の部	
内訳	金額	内訳	金額
同窓会費	2,600,000	人件費(アルバイト代)	550,000
総会懇親会参加費	200,000	通信費(さくらインターネット)	30,000
地区交流会懇親会参加費	200,000	印刷発送費(ふなかわら)	1,080,000
名簿購入代	15,000	郵便代(宅配代も含む)	80,000
寄付金など	22,000	講演会謝金	50,000
預金利息	3,000	総会経費	100,000
		総会懇親会費	200,000
		実践社会薬学講師謝礼(図書券2,000円×20名)	40,000
		実践社会薬学情報交換会費	80,000
		卒業謝恩会祝金	100,000
		卒業記念品代(記念スパーテル)	200,000
		交際費	30,000
		同期会協賛金(3期分)	90,000
		地区交流会懇親会費	200,000
		全国薬科大学薬学部同窓会協議会費	50,000
		文具・事務経費	50,000
		ホームページ維持費	60,000
		予備費	50,000
合計	3,040,000	合計	3,040,000

第五号議案 副会長承認の件

1. 幹事会において協議した結果、現在 副会長の下記 3 名に加え、副会長として30期 内村 兼一 氏を推薦する。

副会長 13期 小高 賢一 氏
22期 安藤 秀一 氏
23期 上村 直樹 氏

平成26年度同窓会講演会について

平成26年 7 月26日同窓会第二部の特別講演では、19期の日本体育大学 スポーツ医学（内科系）研究室 教授 成田和穂先生から「ドーピング防止活動について」と株式会社ファークス ファークスひかり薬局 對崎利香子先生から「スポーツファーマシストの活動について」という演題でご講演いただきました。

成田先生は、製薬会社の開発から関与した医学分野の医師に転身され、その後、スポーツ医学へすすまれました。また、對崎先生も、一度製薬会社に入られたものの、スポーツへの愛からインストラクターを経て、薬剤師のお仕事に携わるようになり、スポーツファーマシストとして活動されています。お二方とも、広いご経験を背景に今回のテーマを講演いただきました。

成田先生の講演内容は、ドーピングとは何かから始ま

り、その歴史、世界ドーピング防止プログラム、ドーピング防止規則違反や禁止物質・禁止方法、サプリメントや漢方薬の考え方、ドーピング検査の実際と詳細にその全体像・実務面まで幅広いものでした。

さらに、2015年の世界アンチドーピング規定の改定内容という最新情報も紹介いただきました。

對崎先生は、スポーツファーマシストという役割とそ



對崎利香子先生



成田和穂先生

の活動内容の紹介から始まり、日頃受ける質問・相談内容を講演いただきました。そして今後スポーツファーマシストが果たしていくべき役割と課題についても紹介いただきました。薬剤師ならではの活躍の場が示され薬剤師としての存在意義を再確認出来ました。

お二人の講演内容は、2020年東京オリンピックに向け

て、ますますその重要性が認識され脚光を浴びていく内容・役割であり、興味深く有意義なものでした。

事実、出席者は演者も含め75名と内容に対する関心の高さがうかがえました。

永井 健一（19期）



18期まで



19期



20期以降

理窓会関連団体加入について

薬学部同窓会は平成27年度より理窓会の関連団体に加入することとしています。

メリットとして

- ・「理科大today」が届きます。
- ・同窓会幹事会を開催する場合、理窓会館（ポルタ神楽坂）会議室の利用が可能になります。
- ・卒業生全員に大学の発行するalumni mailの利用などができるようになります。

これによる薬学部同窓会員に新たな会費の発生はありません。

2015年度名簿について

2015年度は、5年に一度の名簿発行の年です。2015年度名簿に関しては、当初 名簿発行について外部業者への委託という議論がありましたが、大学本部からの指導により、結局同窓会独自で対応するという状況になりました。2010年度同様、CD-ROM形式を考えておりますが、OS更新による不具合の問題もあるため、WEB上で会員データを管理し、アクセスすることで名簿機能をもたせるシステムへ移行を検討しております。発行が遅れる可能性があります。今後、名簿について会員の皆様にご理解が得られるよう議論を重ね、ご報告したいと思います。



薬学部同窓会は同窓生の真心と会費で運営されています

薬学部同窓会の皆様、日頃より同窓会にご協力戴きありがとうございます。

また本年も昨年に引き続き会費納入本当にありがとうございました。同窓会幹事一同心からお礼申し上げます。

そして、本年度から新たな同窓生とられました平成27年3月卒業生52期、修了の皆様、ならびにご父兄の皆様からも本同窓会運営に賛同を得ることができましたことを本当にうれしく思っております。東京理科大学薬学部同窓会は同窓生の真心と会費により運営されております。

今後とも、よろしくお願いいたします。

平成27年度会費納入のお願い

平成26年度に引き続き、平成27年度会費納入をお願いいたします。

各会員の会費納入状況は、ふなかわら送付時の宛名の下部に記載してありますのでご確認ください。なお、会費納入の際には、同封の郵便局振り替え用紙をご利用く

ださい。会費は年会費2,000円(何年分でも納入できます)、終身会員50,000円です。ご寄付も受け付けておりますのでよろしくお願い申し上げます。

(終身会員・∞)

終身にわたり会費を納入済みの正会員の方：終身会員の方は、納入年度にかかわらず、ふなかわらにお名前を記載させていただきます。

(平成××年度まで済み)

平成××年度まで会費納入済みの正会員の方：会費納入年度のふなかわらにてお名前を記載させていただきます。

(平成27年度・お願い)

平成27年度会費 未納の会員の方：よろしくお願い致します。

平成26年度 会費納入額詳細 (平成27年3月31日現在)

	年会費納入		終身会費納入		寄 付 金		合計金額
	金 額	人 数	金 額	人 数	金 額	件 数	
平成26年度卒業・修了者	62,000	4	1,207,000	41	0	0	1,269,000
既 卒 者	273,000	46	975,000	20	63,999	4	1,311,999
合 計	335,000	50	2,182,000	61	63,999	4	2,580,999

薬学部同窓会会員数 (平成27年3月31日現在)

	会員登録数	終身会員	年会費会員
卒 業 生	9,280名	1,957名	953名
大学院修了生	212名	17名	8名
合 計	9,492名	1,974名	961名

氏名・住所・異動等変更届

東京理科大学薬学部同窓会宛

記入

年

月

日

下記の変更をお知らせします。

氏名	フリガナ			旧姓	フリガナ		
	漢字	姓	名		漢字	姓	名
卒業・修了	薬学部（薬学科・製薬学科） 期 年卒 (卒・研究室)			大学院（修士・博士） 年修了 (院・研究室)			
住所	旧住所	(〒 -) 都 道 府 県					
	現住所	(〒 -) 都 道 府 県					
	TEL.		FAX.				
	Eメールアドレス		@				
勤務先	フリガナ	名称					
	所在地	(〒 -) 都 道 府 県					
	TEL.		FAX.				
	Eメールアドレス		@				
その他 連絡事項							

切り取り線

個人情報は 東京理科大学薬学部同窓会の規定に従い管理致します。

【事務所・連絡先】 東京理科大学薬学部同窓会 事務局

〒278-8510 千葉県野田市山崎2641 東京理科大学薬学部内

FAX : 04-7121-4531

E-mail : jimu@ridaiyakudo.gr.jp

【ホームページ】 <http://www.ridaiyakudo.gr.jp/> から個人情報変更できます。

MENU 同窓会事務局 → お問い合わせはこちらから → 個人情報変更



旧薬学校舎の入口付近
(現在11号館)

旧事務課側の階段入口付近
(現在5号館)



5号館内部
(ラウンジや地下に体育館)

東京理科大学薬学部同窓会へのお問合せ

【事務所・連絡先】

東京理科大学薬学部 同窓会事務局
〒278-8510 千葉県野田市山崎2641 東京理科大学薬学部内16号館 1F
FAX : 04-7121-4531 E-mail : jimu@ridaiyakudo.gr.jp

【ホームページ】

<http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>
行事などに関するご案内など掲載しておりますので是非、アクセスしてみてください。

編集後記

本年も無事“ふなかわら”を皆様にお届けすることができました。感謝申し上げます。
特に、執筆にご協力いただいている皆様には、原稿締め切りを、ゴールデンウィーク明けとさせていただいていることから、ゴールデンウィークに、お時間を割いていただいているのだと想像しつつ、心からお礼申し上げます。

さて、神楽坂で学生生活をおくられた会員の皆様は、当時の校舎の所在地が新宿区市ヶ谷船河原町であったことから、同窓会会報の“ふなかわら”が船河原町と関係していることは、容易にご理解できると考えます。ところが、現在の校舎は千葉県野田市山崎ですから、“やまざき”じゃないとピンとこない世代の会員の皆様がいらっしゃるのも事実です。とはいえ、どこかのお酒のメーカー関係誌と間違えられるといけませんので、“ふなかわら”を継続させてください。よろしくお願いします。ということで、“ふなかわら”の由来の紹介と、この名称を今後も継続して使わせていただくということを、ここで、お願いいたします。S.A.

*薬学部同窓会事務局アルバイト募集

【仕事内容】会員登録、同窓会費の確認などの業務 PCのできる方
【時間】週に1回程度 薬学部16号館の開館時間内であればいつでも可能
【時給】1,000円 交通費支給

平成27年度 幹事一覧

小原	侃	(1)
黒崎	浩己	(1)
山口	堅志郎	(1)
生田	安喜良	(2)
鈴木	政雄	(3)
中村	洋司	(3)
池田	幸雄子	(4)
柏木	敬子	(4)
山川	洋志	(5)
山田	高照	(5)
湯田	康勝	(5)
植木	清一郎	(6)
藤石	幸賢	(6)
井山	博行	(7)
寺岡	隆	(8)
奥村	成太	(8)
尾島	勝司	(9)
武中	敏夫	(10)
原	しげ子	(10)
石井	啓子	(10)
安達	順一	(11)
石井	甲一	(11)
小暮	涉	(11)
岡宮	智子	(11)
富秋	英志	(11)
向井	呈一	(11)
飯島	康典	(12)
金澤	幸江	(12)
犬飼	陽一	(12)
田端	敬一	(12)
伊藤	充朗	(13)
小高	賢一	(13)
濱野	朋子	(13)
波田	野和子	(13)
伊藤	昭子	(13)
石井	文由	(14)
岩崎	修	(14)
畑中	典子	(14)
林	譲	(14)
菅原	伸治	(15)
日向	章太郎	(15)
和田	浩志	(15)
遠藤	健治	(16)
関口	真紀子	(16)
田畑	新子	(16)
武田	直子	(16)
今	和枝	(16)
渡部	敏夫	(16)
青山	隆夫	(17)
大山	邦之	(18)
関	裕史	(18)
渡辺	宏二	(18)
山内	紀子	(19)
小川	恵津子	(19)
小嶋	知夫	(19)
高梨	契典	(19)
長谷川	俊雄	(19)
小松	俊哉	(20)
飯野	直子	(21)
吉田	雅人	(21)
安藤	秀一	(22)
磯部	総一郎	(22)
小川	政彦	(22)
柏田	みどり	(22)
永井	健二	(22)
高井	幸恵	(22)
和田	和裕	(22)
上村	直樹	(23)
伊集院	成一	(25)
小林	寧	(26)
関根	靖之	(26)
若松	正克	(26)
前田	真	(27)
大瀧	充	(29)
神谷	貞浩	(29)
内村	兼一	(30)
水	八寿裕	(30)
高橋	未明	(31)
中川	瑞穂	(31)
佐々木	正大	(32)
渡邊	悦史	(32)
小島	昌徳	(34)
野村	香織	(34)
松井	洋介	(34)
金井	亮介	(37)
浅井	将	(37)
遠藤	咲智子	(39)
金枝	有香里	(40)
澤井	美里	(40)
高橋	智至	(40)
今関	友佳	(43)
杉野	由香里	(43)
永井	弓子	(43)
森脇	恵子	(43)
松本	洋典	(43)
石坂	隆史	(大学院)